

基山町総合計画について

～計画の位置づけ・役割・推進体制について～

(案)

令和6年8月
基山町

●●目 次 ●●

基山町総合計画について ～計画の位置づけ・役割・推進体制について～	1
-----------------------------------	---

1 計画の位置づけと役割	1
2 計画の円滑な推進	5

基山町総合計画について

～計画の位置づけ・役割・推進体制について～

1 計画の位置づけと役割

基山町では、平成28年（2016年）3月に今後めざすまちの姿（将来像）を「アイが大きい基山町～住む人にも訪れる人にも満足度No.1のまち基山の実現～」とする「第5次基山町総合計画」を策定し、さまざまな施策や事業を推進してきました。

その「第5次基山町総合計画」が令和7年度（2025年度）で終了することから、今後も町民と行政が連携し、まちの活力や魅力を高めていく施策の展開を図るため、新たな10年間のまちづくりの指針となる「第6次基山町総合計画」を策定します。

まちづくりの基本理念

まちづくりの基本理念は、「めざすべきまちづくりの方向」として、将来においても維持されるものとして位置づけています。

本計画においても、さまざまな新しい視点で計画を策定しますが、基山町がこれまで大切にしてきた精神として、基本理念はそのまま継承します。

基 本 理 念

心豊かな人と人との関係づくり

安全で快適に暮らしていくためには、人と人との心豊かな関係が大切です。これまで培われてきた連帯感や共同意識を失うことなく、「心豊かな人と人との関係づくり」を基本理念とします。

自然と共生したまちの魅力づくり

まちの魅力をその大きさや利便性だけに求めるのではなく、基山町の貴重な財産である自然や歴史・文化を生かし、さらに共に生きる「自然と共生したまちの魅力づくり」を基本理念とします。

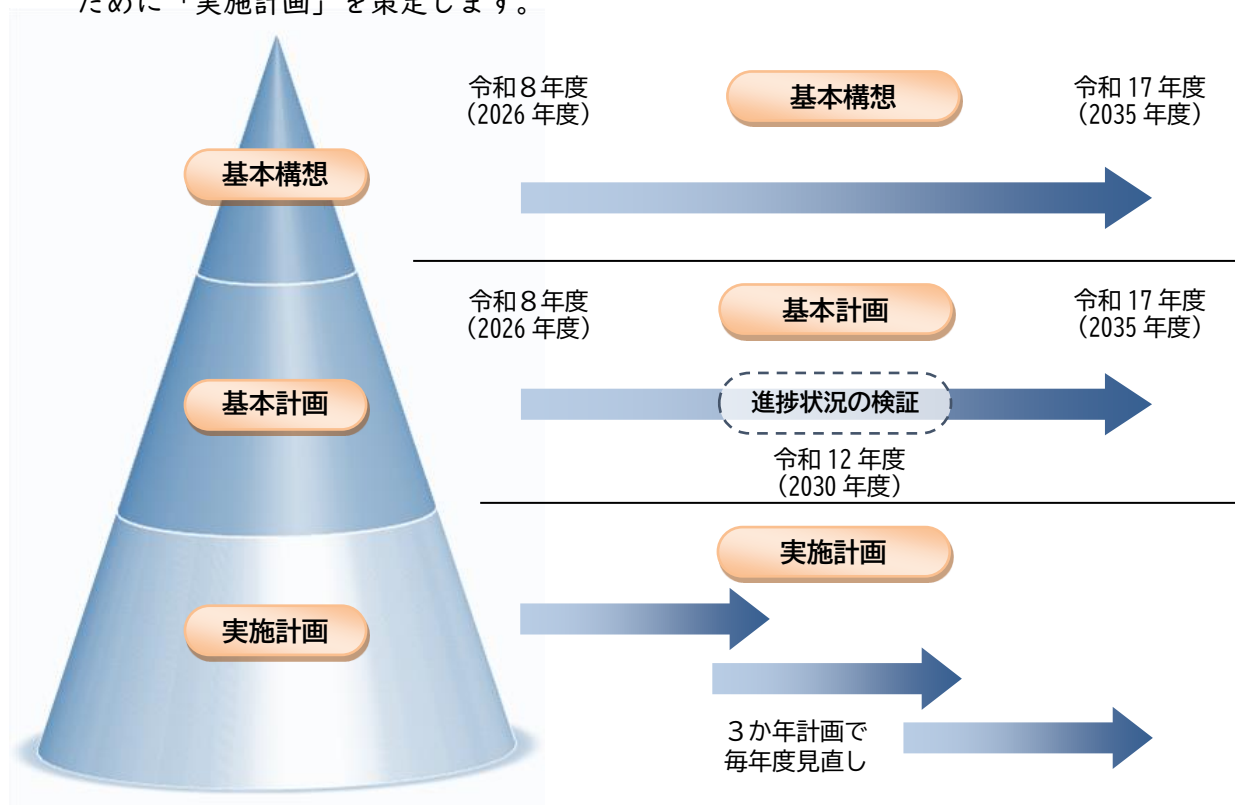
みんなが進める協働のまちづくり

住みよいまちづくりに向けて、町民一人ひとりが地域に関心を持ち、地域で主体的に取り組むことが重要です。また行政においても福祉の増進や基盤整備など、町民と行政がともに考え、行動していく「みんなが進める協働のまちづくり」を基本理念とします。

計画の位置づけ・構成・計画期間

基山町において総合計画は、「基山町まちづくり基本条例」に基づき、「10年後に実現したいまちの姿」（将来像）を明らかにし、その実現に向けたまちづくりの指針を定める、基山町の最上位計画に位置づけられています。

次のように、総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成し、さらにこれを具現化するために「実施計画」を策定します。



- **基本構想** 【令和8年度（2026年度）～令和17年度（2035年度）：10年間】
 - ・町のめざす将来像と将来の目標を明らかにし、これらを実現するための基本的な施策の大綱を示すものです。
- **基本計画** 【令和8年度（2026年度）～令和17年度（2035年度）：10年間】
 - ・基本構想に掲げた将来像や目標、基本的施策を実現するために取り組む施策体系や施策の方向性を示すものです。各施策に中間年度と最終年度の目標値を設定し、中間年度（令和12年度（2030年度））に進捗状況の検証を行います。
- **実施計画** 【令和8年度（2026年度）を初年度とし、3か年計画で毎年度見直し】
 - ・基本計画に示した施策への具体的な取り組みや実施期間を明らかにした短期的な計画で、毎年度における予算編成や事業実施の指針とするものです。
 - ・実施計画については、総合計画とは別途に作成します。

計画の役割

「第6次基山町総合計画」は、次のような役割を持つ計画とします。



多世代共創
(推進力)

シティ
プロモーション
(発信力)

未来へつなぐ戦略
(持続可能)

●「多世代共創」(推進力)

- ・町民、地域団体、企業、行政等による協働のまちづくりとともに、多様な世代や人材が活躍する「多世代共創」によって、今後10年間のまちづくりを実現するための推進力となる計画とします。

●「シティプロモーション」(発信力)

- ・基山町の「^{いま}現在」を表す強みである“きやま^{プライド}PRIDE”を生かしたまちづくりを通じて、町内外へ基山町をPRする「シティプロモーション」の役割を担う発信力を持った計画とします。

●「未来へつなぐ戦略」(持続可能)

- ・多分野に関わるまちづくりの取組を体系化し、現在の暮らしを支える取組や未来への投資、周辺地域との連携など「未来へつなぐ戦略」として持続可能なまちづくりを示す計画とします。

SDGsによる取組について

SDGs (Sustainable Development Goals) は、地球上の「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

SDGsの目標(ゴール)は、世界共通の目標であり、地方自治体の掲げる目標規模とは異なるものもありますが、めざすべき方向性は同じと考えられるため、本計画においても、こうした流れを踏まえ、持続可能な取組が求められます。

本計画では、SDGsとの関連性が分かるように対応するゴールを各施策に表記し、国内外の新たな社会潮流である「持続可能な開発目標(SDGs)」の考えを関連付けることで、中長期的な視点でまちづくりを進めていくこととします。



2 計画の円滑な推進

個別計画への反映・事業実施への仕組みづくり

総合計画は、全ての行政分野にわたるため、本計画が行政の経営指針となるよう、各行政分野の方針や具体的な取組を示した個別計画と連動しながら、「10年後に実現したいまちの姿」（将来像）の実現に結びつくよう取り組みます。

多様な主体との連携（協働・共創）による推進

基山町の「^{いま}現在」を表す強みである“きやま^{プライド}PRIDE”と個々の持つ潜在力を最大限に生かし、地域や世代を超えた多様な主体との連携（協働・共創）によるまちづくりを推進します。

まちづくりの評価の実施

計画の円滑な推進にあたっては、まちづくりの体系にかかる各施策・事業の取組や、事業実績、町民の意見等を把握するとともに、町民の満足度をはじめ、ハード・ソフトのあらゆる視点で指標化し、PDCAサイクル（Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善））に基づいて、評価を行います。

